



神奈川大学校友会
三重県支部

MIE NEWS

NO. 6

第6号

平成19年5月21日発行

発行者 神奈川大学校友会

三重県支部

発行責任者 前田 義文

編集責任者 坂倉 英樹

三重県亀山市関町木崎1234

ホームページ www.thetown.ne.jp/kyuryo-mie

支部長あいさつ

前田 義文
(昭和三十九年貿易科卒)

神奈川大学校友会三重県支部長を引き受け二年が過ぎました。この度、現職再任のこのと、向う二年間気持ちを新たに、期待に応えていく所存です。

さて、神奈川大学校友会三重県支部は、県内在住の卒業生〔会員〕相互の親睦を図ることを主な目的としています。母体は、神大卒業生で組織されている社団法人宮陵会（神奈川大学校友会―三重県支部は校友会を名称としている）であり、卒業すると全員が正会員となります。現在、その数は十七万人を数えています。道府県に七五、海外に三、職域・同期・同好として六〇、合計一三八の支部があり、新しい出会い、旧交を温める活動が活発に展開されているのです。

三重県支部の会員数は、平成十八年卒を含めて約七〇〇名。内訳は、北勢地域三五五名、中勢地域一六五名、伊賀地域二四名、伊勢・志摩地域一一一名、尾鷲・熊野地域四五名となっております。南北に長い当県にあっては、北中部の会員数が全体の七五パーセントで、支部全体の活動を組立てるにおいて辛い条件にあります。中心部片寄りの改善策として、小回りが効く地域別の取組みを理想と

しますが、分散によって効果がでるのか心配する面もささやかれ、抜本的な改善に踏み込まず、これまでも少しずつの改善に留まってきました。目新しさも打ち込まず、現状維持に甘んじています。

支部の活性化問題については、全国支部長研修会において、これまでの講演会参加型から、テーマに沿った基調講演とパネルディスカッションが導入され、共通認識の危機感迫った積極発言型研修に変わりつつあります。しかし、活性化のスタンダードは、やはり難しいものになっています。各支部の実情に即した地道な努力をもって、会員の関心を引く内容を構築していかうとこのことしか打出していません。

幸い、三重県支部の取組みの一つとして、毎年熱田く伊勢神宮間で行われる全日本大学駅伝のブロックごとの沿道応援が支部の活動の継続的の事業として定着しております。上位入賞に期待が高まる年ほど母校への意識、校友会への関心度も増しますが、近年は、予選からの出場で低迷続きです。「復活・神大強し」の願いを胸に、これからも卒業生の誇りと優勝を期待して、応援方よろしくお願い申し上げます。

会員相互の親睦の輪が 大きく広がることを願って

先程も述べましたが、校友会の通年事業の掘り起こしについては腐心いたしておりますが、未だ期待に届いておりません。現在、補足事業として三つのクラブを立ち上げていただいております。クラブ活動の積極参加で、出会いの場・親睦の場をもっと広げていただきたいと願っております。

今後、神奈川大学校友会三重県支部の発展に、会員として意識していただき、総会への顔出し、機会を見つけてはクラブ・催物への参加よろしく願い申し上げます。そして、校友会への提言・ご意見もお聞かせ下さい。

校友会の案内は、会報のほか、インターネットのホームページでお知らせしております。ここから神奈川大学、宮陵会、他の支部のホームページへも繋がりますので、ぜひご利用下さい。

最後に、本会の主旨にご理解いただき、親睦の輪が大きく広がることを願ひまして、あいさつとさせていただきます。